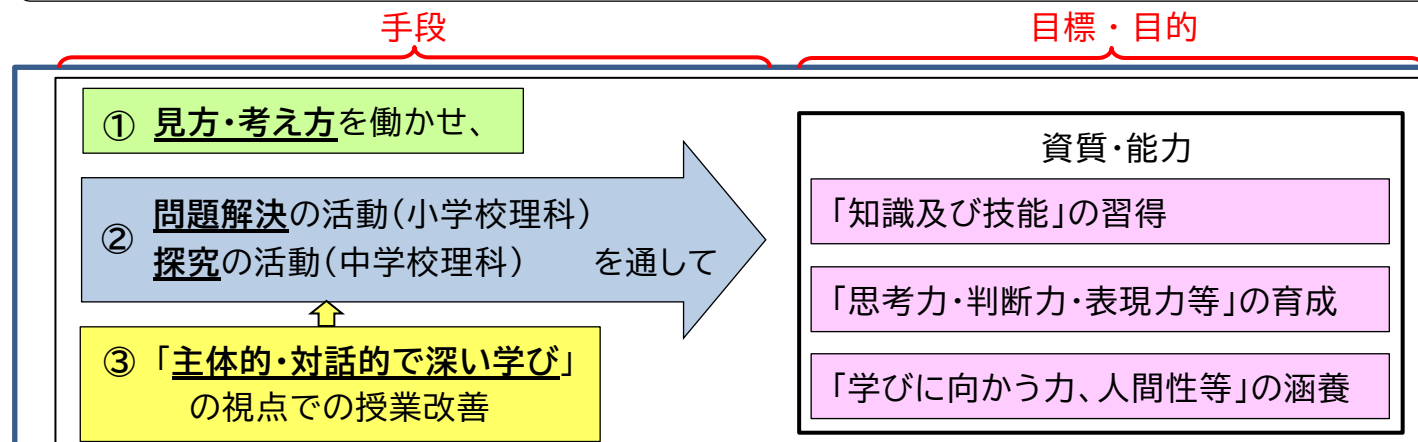




新学習指導要領を理解するためのポイント

新学習指導要領のキーワードを下の図のように整理する。資質・能力を育成することが目標・目的であり、①②③は、そのための手段となる。



① 見方・考え方は、児童生徒が働かせるもの

旧学習指導要領では、「科学的な見方や考え方を養う」ことが理科の目標になっていました。しかし、新学習指導要領では、「理科の見方・考え方」は、児童生徒が意識的に働かせながら、自然の事物・現象に関わるものとして整理されました。なお、見方・考え方は、育成を目指す資質・能力とは異なるので、直接的な学習評価の対象にはなりません。

② 問題解決（探究）の活動を大切に

理科では、これまでと同様に児童生徒が、問題解決（探究）の活動を通して、資質・能力の育成を図ることを重視しています。

③ 「主体的・対話的で深い学び」は、授業改善の視点

目の前の児童生徒の学びの姿を、『主体的・対話的で深い学び』になっているか」という視点で捉え、授業改善を図っていきましょう。

学習評価のポイント

① 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「主体的に取り組む態度」は、学習に粘り強く取り組む姿や自らの学習を調整する姿、理科を学ぶことの意義や有用性を認識する姿を見取って評価します。学習に粘り強く取り組む姿は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を身に付けるための粘り強さを見取るようにしましょう。自らの学習を調整する姿は、自分の考えをもち、他者の考えを受け止めながら自分の考えを見つめ直す姿といえます。

② 「思考・判断・表現」の評価について

観察・実験前と観察・実験後について評価します。評価においては、観察・実験前に予想や仮説を発想したり、観察・実験後に考察したりする際の「言語活動」を重視します。また、観察や実験といった「体験」から行動を観察することも大切なポイントです。

学力向上講演会（理科）

11月19日（木）
アイザック小杉文化ホール ラポール

演題 「新学習指導要領と理科授業づくりのポイント」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 学力調査官
鳴川 哲也 先生



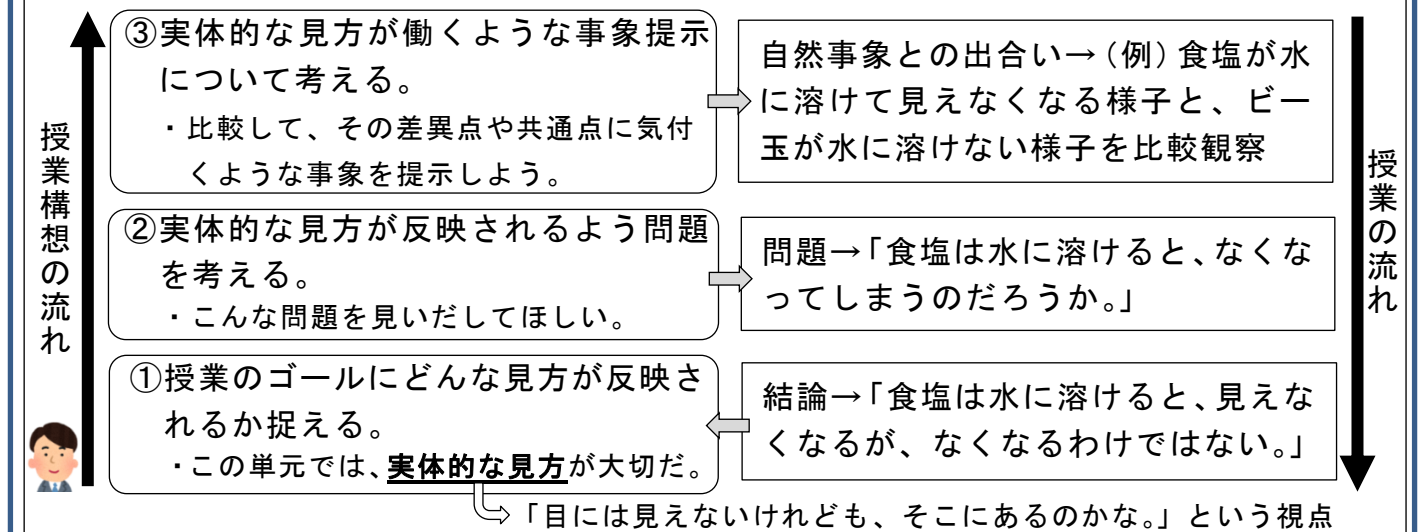
11月19日（木）に行われた学力向上講演会のポイントをまとめました。

※ 講演会資料は、学力向上推進チームのHPからダウンロードできます。（令和3年2月末まで）

児童生徒が「理科の見方」を働かせる授業づくり

その授業のゴールで、児童生徒がどんな見方を働かせるのかを捉え、「そのために、どのような事象との出会いをしたらよいか」と考え、授業を構想することが有効です。

（例）小学校5年生「もののとけ方」での授業構想



よりよい問題解決の活動のために

中学校理科では、探究の過程に置き換えて考えましょう。

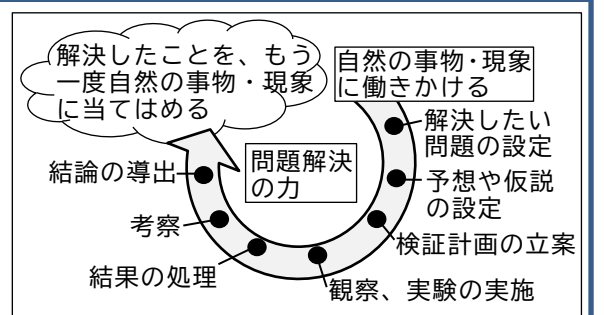
① 問題解決のサイクルを回す

「結論が出たら終わり」ではなく、もう一度、自然の事物・現象に当てはめて考えることで、「そういうことか。」という分かり直しや「では、これはどうなのか。」という新しい問題の見だしにつなげることが大切です。

② 科学的な問題解決を意識する

子供たちの問題解決が、科学的なものになるように支援することも大切です。「問題を科学的に解決する」とは、以下のような条件の検討を重視しながら解決することです。

- ・実証性…（例）「その方法で、自分たちの予想を確かめることができるのかな」
- ・再現性…（例）「誰が実験しても、同じような結果になっているのかな」
- ・客観性…（例）「みんなが納得する結論になっているかな」



・「B問題に挑戦（小学校理科・中学校理科）」を配布しました。学習指導の充実等に活用してください。学力向上推進チームのHPから、過去の問題もダウンロードできます。